

避難所としての「稲むらの火の館」

「世界津波の日・高校生サミット」 準備がすすんでいます

本年5月号でもお知らせいたしました、
「世界津波の日・高校生サミット」が今年10月、11月に和歌山県で開催されることになっています。この催しは、平成27年に第70回国連総会で、稲むらの火の11月5日が「世界津波の日」に制定されました。これを機会に、世界の高校生が集って、若者の視点で津波防災を考えていただこうとするものです。これまで、高知県、沖縄県で開催され第3回目の今年は和歌山県で開催されるものです。

今年の主催は、和歌山県、和歌山県教育委員会、広川町、広川町教育委員会です。和歌山県庁には世界津波の日高校生サミット推進室という部署が設置されて準備がすすめられています。また、国・県・町の担当者が毎月、関係省庁担当者会議で打ち合わせを行っています。

和歌山県から参加される高校生が、8月7日「稲むらの火の館」での事前学習会に参加されました。今回のサミットのテーマは、『災害から命を守る ～「稲むらの火」発祥の地、和歌山で濱口梧陵の精神を共に学ぶ～』ということで、来館されたものです。参加者は、館内での講義や、「広村堤防」「耐久社」「広八幡神社」をフィールドワークしました。



この様子は、多くの新聞社、テレビ局が一日中取材されました。高校生サミット全体をまとめて放送するというテレビ局もありました。

「稲むらの火の館」は災害時の避難所になっています。今回、広川町のホームページから避難施設・避難場所を見てみました。全部で56ヶ所あります。その内、風水害に対応する避難所は24ヶ所、津波は15ヶ所、地震は37ヶ所と分かりました。日ごろから自分自身の避難所をきっちり把握しておきましょう。

「稲むらの火の館・3階」は津波に対応した避難所です。「館・3階」の床は海拔13.7mあります。南海トラフ地震が起こり津波が発生した場合、広川町には最大9mの津波が、地震から33分後に第一波が到達されると想定されています。もちろん、第一波が最大の津波ということではありません。第二波、三波がより大きくなることもあります。9mに対して13.7mあれば安心です、ということはいえません。しかし、深夜に地震が起こり、遠くの安心の所まで避難するのが困難な場合、あきらめることなく、近くの「館」へ避難してください。通常「館」は深夜には閉まっています。その時、表門のスロープの横、南門の商工会前に写真のようなボックスがあります。震度5以上の大きな地震が起こるとこのボックスのカギがその揺れで解錠しますので、扉を開けて中にある「館」のカギを取り出して使ってください。事前に試したい方は、いつでもお越し下さい。



通常「館」は深夜には閉まっています。その時、表門のスロープの横、南門の商工会前に写真のようなボックスがあります。震度5以上の大きな地震が起こるとこのボックスのカギがその揺れで解錠しますので、扉を開けて中にある「館」のカギを取り出して使ってください。事前に試したい方は、いつでもお越し下さい。

<稲むらの火講座>

- 日時 9月16日(日)午後1時30分
場所 稲むらの火の館3階
演題 『災害から命を守る教育 ～広川のこどもたちが取り組むジュニア防災検定』
講師 笠間正弘先生(一般財団法人)防災教育推進協会常務理事・防災教育センター長)

濱口大明神縁起 (その20)

濱田康三郎 (かわせみより)

『皆様は父が生きながら「濱口大明神」として神に祭られた——事實は、祭られようとした——とお聞きになって、驚異の眼をお開きになります。が、いうところの「大明神」が、皆様の〈全知全能の神〉でないことは、よく御推察なされるでありましょう。村民のいわゆる「大明神」は、平たく申せば、尽くすべきことを尽くした人間——つまりは皆様の〈真の紳士〉の外ならないのでないか、と私は考えます。事柄の形式が東洋的であるが故に、皆様の眼には奇怪に映じるでありましょうが、所詮は村民は父を〈紳士〉とし、最高の尊敬を払って呉れた、というべきであろうと存じます。

『しかも、思うに、此の尽す可き義務を尽くした〈紳士〉なるものは、決して世に稀でありませぬ。恐らくは父より遙かにより尊敬す可き〈紳士〉——英雄でも偉人でもないただの〈紳士〉は、世界のどの隅々へ行っても、必ず数多くあったでありましょう。また現在あり、将来もあるであろうにちがいありません。ただそれらの方々の功績の殆んど全部が、世にあらわされていないがために、ほんの狭い地方地方に言い伝えられるに過ぎないのに、これは何という僥倖であったのでしょうか、ハーン氏の麗筆に上せられたばかりに、日本紀州有田郡の片田舎に於ける父の小さい犠牲は、世界中に紹介せられたのであります。父としては、まことに分に過ぎた光栄でありました。父が若し生前にあの文章をみたなれば、恐らくはハーン氏に対しても、「あまりに恐れ多いから」と申して、発表をお控え下さるようお願いしたのであります。

『が、それはそれとして、淑女紳士諸君——浅学非才の私が、只今ここにこうして皆様の前に立って、父の事績の概略をお話する光栄を得たのをよろこぶにつけ、私の心中には実際何と言葉に現してよいかわからない感激を受けると同時に、忘れようとして忘れられないに相違ない尊い教訓を、深く深く刻みつけられるのであ

ります。』

『私は今私の臉に、十八年以前異郷で病没した父の面影をありありと見る心地が致します。そして今更の如く父をなつかしむ情を抑え切れないと共に、父の子としての私の責任のいよいよ重且つ大なるを痛感せずには居られません。せめては父の名を辱しめぬ丈の人間にならなければならない、とそう誓わずに居られません。』

『私は、皆様も御承知の如く、日本から遥々と当国に遊学し、ケンブリッジのペンブローック大学で経済学を修めているものであります。けれども、私が当国へ参って学び得た、又学び得るであろう最も大きい——いや、私の一生の間に学び得る最も大きい、最も重要な教訓は、今夜此の会場に於いて得た此の感銘でなければなりません。それは正しく私の生涯の真の進路に関する天啓であります。此の意味で、私はミス・ステラ・ラ・ロレッツの予期しなかつた御質問に対し満腔の謝意を表します。』

『私は私の不可能事を敢えてして、あまりに長々とお喋り致しました。私の心中の感情はどれ程に申しても申し切れようはありません。然し、私はもう此の上に話す気力を有しません。余は賢明なる皆様の同情ある御推察にお任せ致します……』

こういい終わって、彼は座に復する早々、溢れる涙をせきあえず、声を放って泣きじゃくった。

深淵の如き沈黙の裡に聞き惚けていた会衆一同は、なおも久しくそのまま身動きさへ仕なかつた。が、そのうちに誰かの

『濱口君万歳！』

と叫んだ一声が、忽ちに魔法の呪を破った。津波のような、大津波のような拍手と喝采とがホール中に爆発した。そして人々は——ステラ・ラ・ロレッツ嬢が狂人のようになって真先に立っていたのは、いう迄もなかつた——此の『生ける神』の子との握手を求めるために、青年紳士濱口擔の方に向って雪崩れかかった。

(おわり)

長らくのご愛読ありがとうございました。